

北海道ぎょれん広報

# なみまるくん

[うみ・なかま コミュニケーション]

3  
2015  
No.317

北海道  
ぎょれん



特集

全道漁協青年部大交流会・海外視察研修

来たれ! 漁業を志す若者達 小樽水産高校訪問記



# 大谷室蘭高校で地元の 水産物を使った食育授業を実施



初めてのほたての貝剥きに、真剣な面持ちで説明を受けます

初めて、熱々のフライを頬張った生徒たちは口々に「おいしい」と言い合っていました。地元の水産物についての知識と共に、そのおいしさも知る事ができ、生徒には良い経験となったようです。



下処理から自分たちの手で作ったフライのおいしさはひとしお

**室** 蘭地区の3つの女性部とぎよれん室蘭支店は、2月4日(水)私立大谷室蘭高校で食育出前授業を行いました。大谷室蘭高校では今年度より2年生の選択授業の一環として「食育」の科目が新設され、外部講師を招いての授業・実習が行われています。9月にはぎよれんの職員が講師となり、いくら作り体験を含む、秋鮭の食育教室が行われました。

この日は、いぶり噴火湾漁協豊浦地区、室蘭漁協、いぶり中央漁協虎杖浜地区の3女性部から8名が講師となり、43名の生徒を対象に「地元の魚って美味しいね!」と題してほっきとほたての殻剥きと、剥いた貝とすけそうだらを使ったフライの調理実習が行われました。ぎよれんの職員から、室蘭管内の漁業の状況について説明を行い、いざ実習。使用された食材は、苫小牧産のほっき、虻田産のほたて、虎杖浜産のすけそうだらといずれも地元で獲れた新鮮なもの。ほっきとほたては生徒たちの手元でも殻を開閉させて、いきの良さを見せつけてくれました。食育授業で2回目となるほっき剥きは軽くこなす生徒も多くいましたが、ほたては初めてという生徒が大半。洋食ナイフ片手に恐る恐るほたてを取り、女性部のアドバイスを受けながら貝を開いていました。剥いた貝は女性部が予め下処理をしておいたすけそうだらと一緒にフライにします。揚げ物も初体験の生徒が多い中、普段から台所を預かる女性部のサポートが光りました。試食の際には、熱々のフライを頬張った生徒たちは口々に「おいしい」と言い合っていました。

[うみ・なまこ コミュニケーション]

## なみまるくん

北海道ぎよれん広報誌  
Hokkaido Gyoren Magazine  
March 2015 No.317



01 **浜の元気印!**  
大谷室蘭高校で地元の水産物を使った食育授業を実施

02 **特集**  
平成26年度 全道漁協青年部大交流会

04 **特集**  
道漁青連が海外視察研修を行いました

06 **道内水産高校訪問特集 ~来たれ! 漁業を志す若者達~**  
小樽水産高校訪問記

08 **浜の家族物語**  
頓別漁協/大谷 由博さん ご家族

09 頭すつきり!! ブレイクタイム

10 第19回 漁師さんの出前授業

12 なみまるインフォメーション

14 「宗谷地区漁協事業推進委員大会」が開催

15 本所からこんにちは「漁政部」

16 **大漁祈願!**  
浜のほっとニュース

17 **みなさんのお便りでつくるページ**  
なみまる おたより箱

表紙の写真  
頓別漁協/大谷 由博さんご家族です。



陸で春の訪れを待つ頓別港の船たち



## 全道の青年部員が集まり交流を深めました

1月31日(土)、札幌市の第二水産ビル8階会議室で第52回全道漁協青年部大交流会が開催されました。全道からは305名の青年部員が集まり、互いに交流を深めるとともに、研鑽を積みましました。

### 「北海道漁業の流通対策と 魚食普及の心得」

水産庁 上田 勝彦氏

上田氏は長崎大学水産学部在学中より漁船で働きながら日本の漁村を回り、水産庁入庁後はテレビ等のメディアを通して魚の魅力伝える、魚食の伝道師です。

講演では、魚食普及は30年程前から訴えられ始めたが、現在に至っても、魚の消費量は伸び悩んでいること、魚が嫌いになったわけではないが、家庭で調理することが少なくなったことが語られました。また、昔ながらの魚屋が減ったことで、下処理の仕方や料理法、旬を教えてくれる先生役が減ったことも大きいと言います。魚料理をしない理由としてよく挙げられる、臭いやごみ、手間などの問題についても、先入観によるところが大きく、解決方法を具体的に教えることで、魚はより日常生活に近いものにするのができ、魚食普及の際には、浜の感覚で簡単な料理ではなく、漁業に関わりがないような家庭でも簡単に作れる料理を提案することも大切であると伝えられました。

上田氏には交流会後に行われた懇親会にも参加頂き、大勢の青年部員から地区で行われている料理教室に関する質問などが寄せられていました。



講師の上田 勝彦氏

## 全道漁協青年部クイズ大会

毎年恒例となっている、「全道漁協青年部クイズ大会」が今年も開催されました。全4ジャンル7問のクイズは、なかなかの難問揃い。全問正解の3名を含む5名が成績優秀者として表彰されました。

### 〈北海道の漁業環境〉

Q1. 北海道の漁業者数は、全国の漁業者数約18万人のうちどの位の割合を占める？  
 ① 17% (約3万人) ② 25% (約4万5千人) ③ 40% (約7万2千人)

Q2. 平成25年度の北海道での1世帯当たりの水産物の購入金額の高いもの、ベスト3は？  
 ① 第1位：まぐろ 第2位：さけ 第3位：ぶり  
 ② 第1位：さけ 第2位：まぐろ 第3位：えび  
 ③ 第1位：ほたて 第2位：さけ 第3位：こんぶ

Q3. 北海道の漁協の組合員のうち、50歳以上の方が占める割合はどれ？  
 ① 47% ② 73% ③ 81%

### 〈北海道の漁協青年部〉

Q4. 道漁青連の現会長は國分会長ですが、國分会長は第何代目の会長でしょう？  
 ① 第13代目 ② 第15代目 ③ 第17代目

### 〈協同組合〉

Q5. 次の内、協同組合の特徴として間違っているものはどれ？  
 ① 出資金に対する配当率(%)は制限がある。 ② 組合員は出資口数に応じた議決権と選挙権を持つ。  
 ③ 組合員が自ら組合に「出資・運営・利用」することを「三位一体」という。

### 〈アラカルト〉

Q6. 漁船登録番号の漁船の大きさを示す数字、正しい組み合わせはどれ？  
 ① 「1」：5トン未満 「2」：5~100トン 「3」：100トン以上  
 ② 「1」：50トン以上 「2」：10~50トン 「3」：10トン未満  
 ③ 「1」：100トン以上 「2」：5~100トン 「3」：5トン未満

Q7. 北海道の昆布をPRする「北海道こんぶ消費拡大協議会」のキャラクターはどれ？  
 ① ② ③



見事全問正解の3名。賞品のファイターズ選手のサイン色紙を獲得

答え：Q1. ① Q2. ② Q3. ② Q4. ② Q5. ② Q6. ③ Q7. ①

### 〈大会長挨拶〉 私たち自らが働きかけると意識を持つことが大切です。



道漁青連 会長 國分 隼人さん

昨年の北海道漁業の情勢を振り返ると、かねてからの後継者問題、近年の異常気象による海水温の変化によるものと思われ海洋生態系への影響、資源の減少傾向、燃油高騰や資材コストの上昇による経営悪化、先行き不透明なTPP交渉への懸念に加え、有害生物による漁業被害のほか、数年に一度と言われる台風並みの低気圧の来襲など、改めて自然の驚異を感じさせられる年となりました。こうした様々な懸念事項の中で、我々青年部員は、浜の未来を担う者として、仲間と力を合わせて、将来を見据えて前進していかなければなりません。様々な問題の解決にむけて、私たち自らが働きかけるという意識を持つことが大切です。



今年度新成人を迎えた3名と、代表して発言表明を述べる沙留漁協 山田照寿さん。

### 〈研究発表〉

研究発表では、昨年度の全道青年・女性漁業者交流大会で北海道代表となった2名が発表しました。どちらの発表でも、その新しい取り組みに対し真剣に話を聞いたリメモを取る様子が見られました。

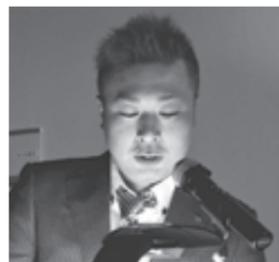
### Next Generation

ペンにはマキリより強し 広報誌による青年部活動の活性化



網走漁協 青年部 武田 耕一郎さん

砂原式ナマコ人工種苗生産技術の確立 海中生け簀で卵から稚ナマコまで



砂原漁協 青年部 丹羽 史昌さん



## 道漁青連が海外視察研修を行いました

研修に参加した10名。右から、盛田州秀さん(渡島)、高橋良典さん(釧勝)、石井啓太さん(宗谷)、福島正和さん(胆振)、國分隼人さん(北見)、成田学さん(小樽)、小笠原悠葵さん(留萌)、久保重和さん(日高)、事務局指導教育部小島職員、営業第一部加瀬部長(かっこ内は地区名)

2月1日(日)から4日(水)に、3泊4日の日程で北海道漁協青年部連絡協議会の役員8名が中国・韓国で視察研修を行いました。今回は、研修に同行した指導教育部の小島さんに研修の様子をレポートしてもらいました。

今回の視察は、3泊4日で中国の大連と韓国のソウルを回る移動の多いスケジュールでしたが、海外研修ならではの得難い体験ができました。

### 大連ではほたてを扱う水産会社を見学

大連市は中国の北東部にあり、遼東半島の南端部に位置する都市です。主な産業は農業、漁業ですが、近年は工業や金融業なども盛んになっています。ここで一行が訪問したのは、獐子島集団股份有限公司。大連市の沖合にある獐子島を中心とした4島でほたての地撒き式漁業を行う水産加工業者です。中国国内で水揚げされるほたての大部



足元の大きな水槽でほたての砂抜きを行います



南大門市場では地元の人に混ざって商品を覗きます

大量に撒くと知り、ほたての稚貝を生産する留萌地区の小笠原さんは「改めて北海道の生産技術が効率的で優れていることに気付かされた。自信を持てた」と話してくれました。

### ソウルのスーパーと市場を視察

韓国の首都ソウルでは隣接する高陽市にあるスーパー「ハナロマーケット」を視察しました。ハナロマーケットは農協が運営し、地元の人々が訪れる大型スーパーです。水産物コーナーも充実しており、水槽に入れた状態で陳列し、注文があつてからさばいて販売する仕組みになっています。かたいやほやが水槽内でひしめき合う様子は水族館のようでした。韓国では刺身をたくさん食べますが、店で刺身してもらったものを買って帰るのが一般的だそうで、視察中も刺身を買求める人が見られました。

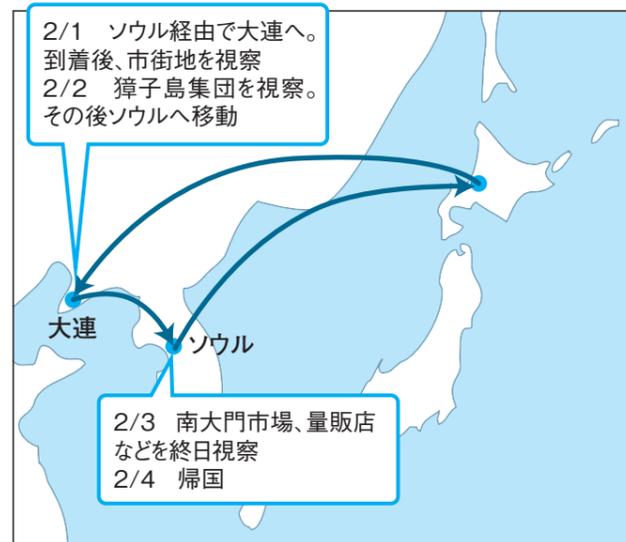
また、並べられている魚の中には、釣り針がつ



水族館のようなハナロマーケットの水産物売り場

いていたり、餌に使用したイカが口から覗いているなど、安全・安心が重視される日本とは違いがありました。一方で、日本産と表記された水産物はあまり見当たらず、宗谷地区の石井さんは「ほたてやなまこはたくさん海外へ輸出されていると認識していたので、現地に来てみて意外に思った」と言います。現地ガイドは「放射能が心配なので日本産は食べない」と話すなど、原発事故による根強い風評被害も肌で感じました。

昔ながらの市場の様子を見ることが出来る南大門市場では食料品や衣料品、雑貨まで何でも扱っており、水産物についても、鮮魚の他に乾物を扱う店舗も視察しました。また、ソウル唯一の水産物専門市場である鷺梁津水産市場も訪問しました。ここは、地元の人々の利用が中心で、水槽内の水産物を購入し、食堂へ持ち込むと調理してもらえます。今回は食堂を体験することはできませんでしたが、並べられている魚は北海道と似ており、とても興味深い場所でした。



分を占め、その90%以上が活貝での出荷です。その事業規模から、中国国内の情報収集には重要な業者となっています。

ここでは、島の全景模型を見ながら事業概要の説明を受けたのち、獲ってきたほたてを蓄養しておく水槽を間近で見学する事ができました。

選別作業を見た後、中国での水産物の消費事情を伺いました。中国ではほたてに春雨とんにくを載せて蒸した料理がブームと聞き、ほたてを生産している役員からは笑顔がこぼれます。他にもなまこが人気で、乾燥させたなまこを水筒に入れてお湯を注ぎ、そのまま持ち運び、お湯を飲む人もいるという話を聞き、文化の違いを実感しました。中国ではほたての稚貝を日本より小さいうちに

海外研修を終え、韓国向けの活ほたてを出荷したことがあるという胆振地区の福島さんは、「中国でも韓国でも、地元住民が市場で水産物を沢山購入していくのを見て、水産物はまだまだ主役であり、なくてはならないものだと実感した。生産者としては、良いものを良い状態で消費者に届け、多く食べてもらう努力が必要だと感じる」と話しました。また、日高地区の久保さんは「北海道の水産物の品質・衛生は優れていると感じた。これからも頑張っていこうと思う」と力強く話します。

全道漁青連会長である北見地区の國分さんは、「我々の漁業の品質・衛生は誇れるものです。今回の研修では、普通の観光では見ることができないような会社や市場を見学しました。日本とは違う国の生活を実感することができ、とても勉強になりました」と総括しました。

今回の経験を各地区の青年部に持ち帰り、今後の活動へ様々な生かしてもらえることを期待しています。



鷺梁津水産市場にも水槽が並びます



ハワイに向けて小樽を出港。  
一番左が海老名さん



仲間と寝食を共にしながら、往復50日の航海を進めます



無事ハワイに到着



短期の乗船実習。この日は留萌沖の武蔵堆で釣り実習(右が海老名さん)

## 50日間のハワイへの操業実習で、甘い考えの自分が変わった

資格は全て1回で取りましたが、勉強は得意ではなかったので、しないといけないと思いつつ、最初はちょっとやって止めるといった状態でした。1年生の頃は本当に全ての考えが甘かったです。

考えが変わったのは、高校2年生になってから。海洋漁業科・漁業コースは、2年生の10月から実習船「若竹丸」に50日間乗船し、まぐろ延縄実習をハワイ沖にて行います。狭い船の中で実習をして、ご飯食べて、授業を受けて。携帯はもちろん時間をつぶす私物は一切持ち込めないのが本当に大変でした。休憩時間を過ごすのは、船の中にあるトランプを友達とやるくらいしかありません。そのような日常と異なる環境を我慢できたのだから、他のことは何でも大丈夫だな、と思えるようになりました。

とにかく大変な実習でしたが、一番楽しかった思い出もその実習です。経験したことのないまぐろの延縄操業が出来ましたし、日本から船でハワイに行く機会なんてこの時くらいしかありません。24時間、3時間交代制で行う当直では、基本的に3時間立ちっぱなしで海の監視をします。夜になると真っ暗というよりは何も見えません。でも上を見ると空の星が全て見えるのではと思うほどきれいでした。大変なことつらいことも、この実習では全てが勉強になりました。

## いずれは兄を超える漁師に。漁師になろうと思う人には、自信を持って小樽水産高校を勧めます

目標とするのは、本当は親父って言いたいですけど、親父の背中は大きすぎるので、兄にしておきます。

3年間の高校生活で、多くの友達も出来て楽しかったのですが、寝て起きて、ぱっと外を見ると実家と風景が違う。実家ではすぐ目の前に海が見えて、親もいます。やっぱり地元が良いなとずっと思っていました。でも、地元に行ったら、自分勝手な自分で終わっていたと思います。高校で親元を離れて、中途半端では帰れないと思えたことに意味があったと思います。勉強も実習が多くなるにつれ楽しくなりましたし、精神的に強くなりました。漁師になりたいと思うなら、ぜひこの学校に来た方が良いでしょう。

## 海洋漁業科では、豊富な実習を通じて、一生の仲間を得ます

海洋漁業科担任 **初山 智哉**先生

海洋漁業科の50日間のまぐろ延縄実習では、船の限られた空間の中で、生徒同士が最も多くの会話を交わすため仲間意識が育ちます。船に乗る者達の共通の言葉としてSeamanshipという言葉があり、直訳すると「海の男の精神」。子どもたちにその意味を考えさせると、「弱い者を助けて一緒に目的に向かうこと」と言う子もいれば、「忍耐力」と言う子もいて様々ですが、それぞれの考えるSeamanshipが3年間の高校生活のなかで生まれ、多くの実習を通して一生の仲間を得られるのが、海洋漁業科の特長です。

また、必要な免許も数多く取れます。海洋漁業科の半数以上が、船舶(フェリーやタンカー船の運航等)や海老名君のような漁師など航海・水産関連の仕事に従事します。東日本大震災の被災地にいち早く物資を届けられたのが船だったという報道を見て、そういった重要な海洋物流を担いたいと希望して来る生徒もいます。海が好きであれば、頭も、体も使って大切なことが学べる環境です。



広尾町出身、28歳。  
鹿児島大学水産学部卒業後、東京海洋大学に進学。海外への長期航海実習も経験し、その経験を生徒に伝えたいと語る。

# 道内水産高校訪問特集 ～来たれ! 漁業を志す若者達～ 小樽水産高校 海洋漁業科 漁業コース 訪問記



石狩湾を望む高台にある小樽水産高校の校舎



操舵練習ができる機械など校内の実習設備も充実

道内の水産高校で漁師を目指す生徒と先生にお話を伺う特集企画。今回は北海道小樽水産高等学校を訪問しました。同校は、海洋漁業科、水産食品科、栽培漁業科、情報通信科の4つの学科を有し、なかでも海洋漁業科・漁業コースは、漁業生産や船舶運航等に携わる人材育成を目指し、豊富な実習に基づく学習内容が特長です。

この春卒業し、地元枝幸町で漁師になる予定の海老名さんもその海洋漁業科の生徒の一人。最初は親元を離れて苦労があったものの、操船やロープワークなど漁業実習が増えるにつれ力を発揮し、「クラスの皆をリードしてくれるようになった」と先生に認められる存在に。取材では、口べたながら一生懸命質問に答えてくれ、「漁師になりたいなら、絶対うちの高校に来た方が良いでしょう」と自信を持って勧めてくれました。多くの思い出が詰まった3年間を振り返ってもらいました。



えびな たいせい  
**海老名 泰成**さん

卒業後は地元枝幸町に戻り、ほたて漁に従事する予定。  
釣りが大好きな根っからの漁師気質の18歳。

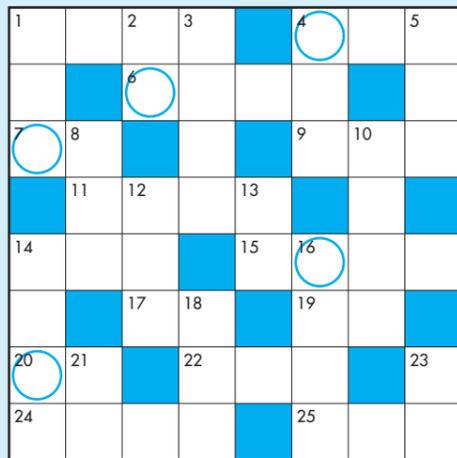
海洋漁業科・漁業コース3年生  
海老名 泰成さんにお話を伺いました。

## 漁師になりたい。父の卒業校である小樽水産高校に迷いなく進学

小樽水産高校は、父が卒業生だったこともあり、迷いなく決めました。実家は、たらばがにの刺網、底網、鱒の小定置、昆布等を営んでいます。小さい頃から家の仕事を手伝っていました。中学生の時にはかたい刺網を巻いたり、カラフト鱒の網起しを手伝ったり。自分が行きたいから何でもついて行く感じで、朝の手伝いをしてから学校に行っていました。

高校に入ってから親元を離れての下宿生活です。今思うと大変だったなと思いますけど、地元とは違う環境に行き漁業全般の勉強をしたかったですし、水産高校では色々な資格も取れると聞いていたので、高校のうちに取った方が早いと思いました。取った資格は1級小型船舶操縦士、2級海上・陸上特殊無線技士等、船に必要なものは、ほとんど取ることができました。

# クロスワードパズル



次のクロスワードを完成させ、○印に当たる言葉をうまく並べてください。「春は出会いと別れの時期」と言われます。特に学生生活において訪れる別れは、成長の1つのステップという喜ばしい出来事でもあります。今年の春も沢山の学生が学び舎から巣立っていきますね。

## タテのカギ

- ① 亀と競争したり、月に住んでいたりする耳の長い動物
- ② 量と天秤にかけるもの、量より〇〇
- ③ 劣勢⇄
- ④ 短気は〇〇〇と言われる
- ⑤ 時計で確認
- ⑧ マグロの脂肪の少ない部分
- ⑩ 四つ葉のクローバーを見つけると訪れる
- ⑫ 一晩中寝ずにいること
- ⑬ カラオケで画面に流れる言葉
- ⑭ 雑誌の顔と言われるページ
- ⑯ お風呂場を別の言葉で言うこと
- ⑰ 部活に参加している人のこと
- ⑱ 騙されないようにここに唾をつける
- ㉓ 書店で販売

## ヨコのカギ

- ① 干したらすっぱくなる実で漬けた果実酒
- ④ ほうきや雑巾はこれの道具
- ⑥ 職場に通うこと
- ⑦ 変速する時はこれをチェンジ
- ⑨ 未婚⇄
- ⑪ 調理実習がある教科
- ⑭ 「内緒よ」と言って打ち明ける
- ⑮ 論より〇〇〇〇
- ⑰ 棒が出てきてびっくり!
- ⑲ 漢字の読みは音と〇〇
- ⑳ ばんえい競走の動力
- ㉒ メザシの材料
- ㉔ ドラマや映画で主役を演じる人は「〇〇〇〇俳優」
- ㉕ ベッドが二つある部屋は〇〇〇ルーム

○印に当たる言葉を  
うまく並べてください。

**解答**      となります。

くわしい応募方法は、17ページをご覧ください。  
抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

**2月号の解答と当選者**  
ハルイチバン

ウ	グ	イ	ス	ハ	ガ	キ
ブ	チ	ジ	ヨ	ウ	ツ	
ギ	ダイ	ウス	ウチ			
ン	カイ	カン				
マル	ン	ユイ				
メ	シ	キ	ユウ	カ		
マ	ツ	キ	バ	ラ		
キ	ヤ	ン	ブ	イ	ク	ラ

(福島町)川村 幸一さん  
(七飯町)清水 悦子さん  
(枝幸町)斉藤 政子さん  
(札幌市)香川 乙恵さん

## 間違いさがし

間違いは5つです。

※右と左の絵には、5か所の異なる点があります。  
さあ、見つけてください。  
(印刷のズレや汚れは関係ありません。)



※答えは17ページにあります。

表紙に登場いただいたご家族を紹介いたします。

## 今月の家族物語



【大谷さんご一家】 大谷由博さん(53歳)、静香さん(47歳)、有陽さん(中1)、崇実くん(小5)

※由博さんの父・又由さん、母・鈴さんと共に。

「浜の家族物語」では、「なみまるくん」の表紙に登場いただいたご家族を紹介いたします。今回は、頓別漁協の大谷さんご一家です。

「まだ改善の余地がある」と話し、地域の漁業の発展に更なる意欲を見せます。

## 家族との時間が取れるのが漁師の良い所

ほたて桁網漁の傍ら、定置漁やたこ漁を営む由博さん。北大の水産学部増殖学科を卒業後、オホーツクの現場で働きたいという思いから紋別漁協へ就職した経歴の持ち主です。現在はほたて漁業で安定した経営となっている頓別ですが、由博さんが28歳で戻ってきた頃には、資源量の少なさからほたての操業が2日に1回しか行われなかったと教えてくれました。「子どもの頃は両親が朝から晩まで働いても貧しくて、ここから出て行くことばかり考えていました。こうして戻って来たのは漁師が嫌だったわけではなかったからでしょうね。今は増殖の優等生のほたてとさけの両方の漁業に携わってその恩恵を受けている幸せ者ですね」と笑います。漁師の良い所を尋ねてみると、「家族との時間がたくさん取れたのが一番だね」と話してくれました。現在、組合の理事も務める由博さんは「頓別のほたて漁にはまだ

## 家族そろって野球が趣味

妻の静香さんは紋別出身。紋別漁協の元職員です。姉の有陽さんはソフトテニス部に所属する中学1年生。猫が好きで、将来は動物の保護活動がしたいと言います。弟の崇実くんは野球と遺跡が大好きで、将来の夢はプロ野球選手か考古学者。有陽さんも小学校までは野球をしており、一家そろって野球好きな大谷家では、連休に家族で札幌に野球を見に行くのが恒例。今年のファイターズの試合日程も決まり、札幌での試合観戦のためのスケジュール調整が始まっています。



大谷家の愛猫チョコちゃん



漁師さんの技を見逃さないよう取り囲みます



かいっぱい引いてもほどこけません

後半授業・学校時間割4時間目

2時間目のスタートは、お魚クイズ。答え合わせのたびに歓声があがりました。次に授業の見せ場の実演コーナー。持ち込んだ活アワビを素手で貝から剥きとる様子に子供たちはびっくり。最後に二人によるロープワークの薩摩入れ。切れたロープを素早くつなぐ手品のようなすてきな技に、生徒たちは拍手喝采。つなぎ合わせたロープを漁師さんと引つ張り合う、ミニ綱引きになりました。最後は漁師さんを囲んで記念の写真撮影。思い出さなければ授業になりました。

す。二人の漁師さんは、展示してある漁具について質問攻めにあい、一息入れる時間もありません。

## 第19回漁師さんの出前授業



## 漁師さんの熱血授業で、外は雪でも教室の中は熱いぞ!



えび籠とかに籠の違いを説明

かれないの刺し網漁を楽しく解説

### 子供達からお礼のお便り

★漁師さんの仕事は、船に乗って魚を釣っておわりだと思っていたので(港に帰ってからの仕事がいっぱいあるのに)びっくりしました。これからは魚を食べるときしっかり味わって食べたいです。

★魚一匹とるのに、こんなに努力しているとは知りませんでした。

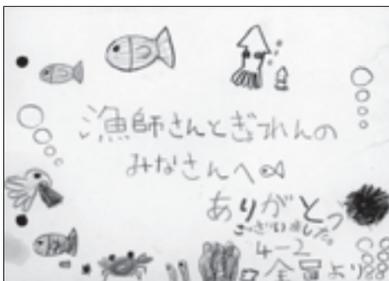
★どうやって魚やいかをとっているかわかりました。これからもいろいろな魚を食べて、大きくなります。

★実際の漁は夜中にやっていることを初めて知りました。

★漁師さんの仕事を教えに来てくださってありがとうございました。海の資源を大切にしようと思いました。

★漁師さんは眠い中でも頑張っているのがすごかったです。

★もらった魚の図鑑で、もっと魚のことを知っている人な人をびっくりさせたいです。



※授業を受けた子供たちから「漁師さんが頑張って!」の感想がたくさん寄せられました。給食に魚が出るたび二人の漁師さんを思い出してくれることでしょう。

### 今回登場の漁師さん



道漁青連 松山地区会長  
ひやま漁協  
なりた 直広さん



道漁青連 小樽地区会長  
小樽市漁協  
なりた まなぶ 学さん

前半授業・学校時間割3時間目

1時間目は、登場した漁師さんの沖での仕事ぶりをDVDで学習。次に資料を

会場に飾られた大漁旗、透明なカーテンのような刺し網、ほたて養殖籠、フロート類、生徒たちは興味津々です。校長先生が「プロの人、中でも漁師さんのお話を聞く機会はなかなかありません。今日はしっかりと勉強しましょう」と挨拶し、拍手に迎えられ二人の漁師さんが登場です。



校長先生も楽しみにしていました



いか釣り用の集魚灯の大きさにびっくり



ひやま成田さん手作りのすめ



美味しそうなるめについて先生も手が伸びます

休み時間

ひやまの成田さん手作りの「すめ」も展示され、手に取って匂いをかぐ子や、食べたいと言いつい出す子など、会場の展示物を見るため子供たちが行き交い

使い、漁業全般について学ぶとともに、漁師さんの資源を守る努力や魚の栄養についても学びました。最後は用意したきれいな網や、いか釣りの集魚灯・いか針等の使用法を聞き、あっという間に授業は終了です。

1月23日(金)、札幌の資生館小学校で通算19回目となる「漁師さんの出前授業」(道漁青連とぎよれんの共催)が行われました。参加した4年生87人にとっては、漁師さんが使う道具に触れ、お魚クイズに挑戦し、ロープワークのすてきな技を実感した、漁業を身近に感じる特別授業になりました。

流木などの漂着物に対する見識を深めました  
全道漁協環境保全研修会が開催されました

03

2月13日(金)、札幌市のセンチュリーロイヤルホテルで全道漁協漁場環境保全研修会が開催されました。例年行われているこの研修会。今年は道環境生活部、道総研林業試験場、留萌開発建設部の3名を講師に、漂着物、その中でも大部分を占める流木をテーマに行われました。流木の発生メカニズムや、発生させないための研究の状況、被害を軽減させるための対策や流木処理の現状について、また、回収した漂着物の処理費用の補助についても説明がありました。講演後は、漂着した流木の処理や川で流木を発見した際の対応、川岸の整備の際に植える樹木の種類などについて積極的に質疑が交わされ、漂着物被害に対する取り組みへの熱意を感じさせました。



研修会の開会にあたり、挨拶を行う環境本部 平野本部長(えりも漁協)

漁業に関する地域活動が、優秀賞・奨励賞に  
「わが村は美しくー北海道」運動  
第7回コンクールの結果発表

04

北海道開発局では、道内の農山漁村地域の魅力と活力を高めようと、「景観」、「地域特産物」、「人の交流」に関する優れた活動に光をあてるコンクールを実施しています。

7回目となる今回は、80市町村から99件もの応募がありました。平成26年度はブロック審査を行い、優秀賞には「美国・美しい海づくり協議会(積丹町)」、「落石地区マリナビジョン協議会(根室市)」ほか12件、奨励賞には「寿都地域マリナビジョン協議会(寿都町)」、「網走川流域農業・漁業連携推進協議会『だいちとうみの会』(網走市・津別町)」ほか28件が表彰されました。平成27年度は、優秀賞の中から大賞を決定しますので、ぜひご注目ください。

受賞団体情報など詳しくは下記の北海道開発局ホームページをご覧ください。

[http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z\\_nogyo/wagamura/index.html](http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_nogyo/wagamura/index.html)

※「わが村」で検索してください。



「わが村は美しくー北海道」運動 第7回コンクール 小樽ブロック表彰式  
藻場保全活動や、観光業と連携した活動が評価された「美国・美しい海づくり協議会」



ネイチャークルーズの実施や、「沖詰めサンマ」をはじめ落石産ブランドの確立等が評価された「落石地区マリナビジョン協議会」

2月号記事に関する訂正

前号(2月号)の特集「平成26年度北海道昆布漁業に関する懇談会」3ページの釧路市東部漁協 理事 佐藤政勝さんのご発言に「カンザシという棒を刺してねじる方法については、厚葉昆布を根こそぎ採ってしまう恐れがあるため、資源保護を目的とした先輩の教えを守り、今も使わないようにしています。」とありますが、正しくは「シバネジリ・ラセンネジリという棒を刺して…」の間違いでした。訂正いたします。

平成26年度補正・平成27年度予算、浜の活力再生プランについて説明を行いました

全道漁協指導部門担当者会議を開催しました

01

2月12日(木)、道内各地から105名が集まり、札幌市のセンチュリーロイヤルホテルで全道漁協指導部門担当者会議(主催:漁政部)が開催されました。今回は、平成26年度補正予算、平成27年度水産関係予算のうち、浜の活力再生プラン、燃油価格等高騰対策、強い水産業づくり交付金などについて、水産庁と全漁連から3名の講師による説明と質疑応答が行われました。助成金申請の際の注意点や全国の申請状況といった情報提供や、省エネ機器等導入推進事業の具体的な事例における補助の判断基準についての質問がされました。助成を受けるために必要な申請の期間が短くなった事業もあり、参加者は説明に真剣な表情で耳を傾けていました。



浜の活力再生プラン、燃油価格等高騰対策などについて説明がされました

にしんとほたてのおいしさと調理法を広めます

漁業士会が石狩市民を対象に水産教室を開催しました

02

1月29日(木)、藤女子大学花川キャンパスで、石狩・後志漁業士会主催で「お母さん水産教室」が開催されました。今年で7回目となるこの教室は、当初は石狩市の主婦を対象としていたため「お母さん」の名がついていますが、5回目の水産教室からは藤女子大学の学生と石狩市民を対象としています。石狩管内の主要魚種であるにしんを食材として魚の扱いに慣れ親しんでもらい、魚食普及に繋げることが目的です。

この日集まったのは、学生7名と石狩市民25名。漁業士6名の指導の下、にしんの3枚おろしやほたての貝むきに挑戦しました。他にも卵をたっぷり抱いたメスのにしんの煮付けを作り、悪戦苦闘しながら捌いたにしんのカルパッチョとほたての刺身、事務局が用意した醤油風味のにしん汁に参加者は舌鼓を打っていました。併せてぬかにしんや塩かすのこの作り方についてもレクチャーがあり、終了後には参加者から「これまで、にしんは手間がかかりそうで敬遠していましたが、これからはどんどん買っていきたいです」という声を聞くことができました。



ほたての剥き方のコツを伝授



にしんの下処理方法に興味津々



本所から  
こんにちは

ぎょれんには浜に密着した「産地支店」、消費地での営業を行う「消費地支店」とともに、各事業の専門部署で構成される「本所」があります。このコーナーでは、普段、浜のみなさんと直接接することが少ない本所の各部署を1カ所ずつご紹介します。

今月は 漁政部 です



## 私たちのお仕事二本柱

### ① 漁業を取り巻く諸課題への迅速な対応

TPPなどの貿易自由化、原発風評災害、海獣による漁業被害等、漁業者一人一人では打開が困難な外的問題が山積しております。

こうした諸課題の解決に向けて、浜の組織力を結集した決起集会や国等への要請活動を展開しています。

### ② 漁業の構造改革・経営強化に向けた取り組み

水産資源の減少や燃油高騰を始めとした漁業コストの高止まりなど、漁業経営が厳しい環境に置かれている中で、担い手の確保や経営基盤の強化を図るため、水産資源の増大対策、漁業構造改革に向けた支援措置など、予算の確保と政策要望・提案に取り組んでいます。

そして各浜の活性化を目指す「浜の活力再生プラン」の着実な前進に向けて、サポートも行ってまいります。



トド等有害生物被害対策を国に強く要請  
(写真は上陸場に群がるトド)



燃油高騰対策を求める北海道漁業者集会

浜のみなさんへ

## 浜の未来を水産政策に反映させること、それが我々の使命です!



漁政部  
斎藤参事

漁政部は、本道漁業の諸課題解決に向けて、浜のみなさんの意見が水産政策に反映されることを目指し、日々業務に取り組んでおります。

特に近年は海洋環境の変動等により、水産資源の多くが減少の一途を辿っていることに加え、浜の担い手減少および漁船をはじめとする施設の老朽化など多くの課題を抱えており、安定した経営基盤づくりが急務となっております。

浜のみなさんが漁業・漁村の将来に希望を持てるような経営環境を作り上げたい、そして意欲をもって操業をしてもらいたい。そのためには、浜が直面している目の前の課題解決に向けて、速やかに国等への要請を行うのはもちろんのこと、本道漁業の未来を見据えた政策提案を行い、その実現に向けて取り組むことも大切な使命です。

活力のある、真に強い北海道漁業の確立を目指し、全力で取り組んで参ります。

## 事業の垣根を越えて協同の力を強めよう! 「宗谷地区漁協事業推進委員大会」が開催



2月6日(金)、ANAクラウンプラザホテル稚内で、3年ぶりとなる、宗谷地区漁協事業推進委員大会が開催されました。穏やかな天候に恵まれ、枝幸・頓別はじめ利尻・礼文の両島からも大勢参加。購販、マリンバンク、共済の各推進委員120名が講演に耳を傾け、系統の各事業について研修しました。

開催条件の変更と悪天候のため中止が続いていた宗谷地区の漁協事業推進委員大会。本年度は悪天候に備え、予備開催日も事前に決め、万全の態勢で臨みました。今年は主幹団体がぎょれんのため、系統関係の話題提供は佐藤専務による「隣接国との諸課題について」。中国・ロシアとの国境問題、韓国・北朝鮮との領土、拉致問題など現在抱えている諸問題について分析し本道漁業との関わりを紹介しました。引き続き講演した気象予報士の半田氏は、世界的な海洋気象の変化と地元海域の今後の変化について、時にはテレビの裏側情報を織り交ぜながら紹介しました。

また今年度は従来の分科会方式をやめ、各連支店長からのクイズ形式の研修会を実施。クイズの答えが解説に隠されているとあり、参加者一同真剣そのもの。全問正解者続出の大成功に終わりました。交流会ではビンゴゲームを楽しみ、久しぶりの旧交を温める姿が会場のあちらこちらに見られました。閉会にあたっては、本年の豊漁と操業の安全を祈念し、三本締めでのお開きとなりました。



会場後方には系統各連の活動推進ポスターが勢揃い



「漁業者・漁協・系統が、購販・マリンバンク・共済の垣根を越えて結束し、より大きな力を発揮しよう」と開会挨拶した、長原寅悦宗谷地区購販推進委員長



海洋国日本の抱える課題に対し、大胆にアプローチしたぎょれん佐藤専務



海洋気象の変化と今後の予測についてユーモアを交え講演した、半田晋二郎気象予報士



会場入り口のロビーには系統ブランド資材を展示し、担当者がセールスポイントをアピール

編集部からのお知らせ

皆様からの便り、写真、イラストをお待ちしています!

次の①~③を明記の上、ご応募ください。抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

- ①なみまるおたより箱への投稿(便り、写真、イラスト等)や、広報なみまるくん3月号への感想・ご意見など
②9ページのクロスワードの答え
③住所・氏名・年齢・電話番号

【宛先】3月20日までにお願いします。

(郵便) 〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1番地 北海道ぎょれん 営業企画部 広報担当 (FAX) 011(271)0843 (電子メール) info@gyoren.or.jp

※「なみまるおたより箱」には①からご紹介します。ご応募いただいた方の個人情報は、図書カード進呈や、便り、写真、イラスト等の掲載(氏名、年齢、市町村名)にのみ使用いたします。写真やイラストは、返却できませんのでご了承ください。

9ページの間違いさがしの答え



浜の家族物語では、お話を聞きに全道へ出かけます。その際に、私がひそかに楽しみにしているのが動物。賃貸であるため動物が飼えない我が家。訪問先のペットのみならず、野良猫やキタキツネまで、出張のたびにスマートフォンに写真が増えています。(天幡)

新しい年に入って、毎日の時化で沖の作業もはかどりません。自然相手だから仕方ないけど...。毎日ストーブの側でテレビ見ている(笑)でも早く風が続きますように... (函館市 浜ののんちゃんさん 65歳)

なみまるくん2月号に出ていた浜のおかあさんレシピ早速作ってもらいました。えびが大好きなので、甘えびのだしが出てとても美味しかったです。(室蘭市 斉藤 高幸さん 41歳)
今年も大漁を願っています。みなさん風邪をひかないように。(枝幸町 音藤 政子さん 63歳)

先日桃内沖で群来しました。練大漁でありますように。(小樽市 宮古 登美子さん)

今年も例年より気温が高く、春が早く来そうな気配を感じます。小樽水産高校の取材では、この春から漁師として歩み出す生徒さん取材しました。念願の漁師になれる喜びと期待に胸をふくらませる様子は、私にもフレッシュな気持ちを感じさせてくれました。取材でお話を伺う皆さんから、いつも元気をもらいます。(工藤)

編集後記



家の裏の海では寒い中アサリ採り(機械掘り)が行われています。(機軸掘り)が行われています。(浜中町 榎山 秀子さん 60歳)
前年不漁続きでした。今年は豊漁でありますように。(福島町 川村 幸一さん 54歳)

まだまだ白い雪がたくさんありますがもう2月。早いものですね。もうすぐ春一番も吹き始めますね。また、昆布漁が始まるかと思うと、力が湧いてきますよね。今年もガンバッテ行きましょう。(函館市 K.T.さん 64歳)

今年も雪も少なくいつもより暖かいです。でも風は冷たいです。早く漁が始まって、動きまわりたいです。(礼文町 相内 光子さん 71歳)

起こすな海難 起こそう海難防止の意識

公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター

大漁祈願!

news 浜のほつとニュース

小樽

当管内ではにしん漁が最盛期を迎えています。1月10日の解禁日から豊漁に恵まれ、2月17日現在、管内累計で水揚げ数量が1,000tを超え、昨年同日対比で147%となっています。1月26日には石狩湾古潭沖で今年初となる群来が見られ、その後も好漁が続いています。2月中旬以降はサイズ比率が6年魚から4~3年魚中心の来遊に切り替わり、オスメス比率はメスが多くなりました。残り僅かな漁期ですが、このままの豊漁と安全操業で締め括れるよう願います。

室蘭

終盤を迎えています胆振管内の助宗刺網漁は、累計水揚げ数量が18,000t、昨年対比が115%となっています。浜値はk@80~70処で、昨年より高値で推移しています(2月19日現在)。また、管内のほたて漁は最盛期を迎えており、現在日産200~300tの水揚げとなっています。3月からはえび籠漁が始まるので好漁に期待がかかります。生産者の方々の安全操業、豊漁を祈念しています。

根室

風連湖での氷下待ち網漁では、にしん、ちか、わかさぎの水揚げが日々続いております。歯舞漁協で1月末に解禁となったふのりの初入札は、昨年よりも高値スタートとなりました。また、時化や流氷の影響により、羅臼漁協での刺し網漁や野付・標津漁協でのほたて漁の出漁できる日が限られていますが、今後の順調な操業と水揚げに期待しています。

留萌

先般、管内漁青連の地区大会が開催され、青年部員達が一堂に集いました。研修では2名の講師の講演を熱心に聴いて知識を高めるとともに、懇親会を通じて交流を深めるなど、今後の活動に向け、より一層結束を強めました。また、各浜ではこれから始まる稚貝出荷、かれい漁、えび籠漁などに向けた準備を進めており、今後、春の訪れとともに浜が一番活気づく季節が近づいてきています。

梶山

寒風吹き荒れる日本海で、岩のりの採取が最盛期を迎えています。今年の生育状況は良く、水揚げも去年に比べて順調のようです。採れたものの多くは乾海苔として加工され、おにぎりや味噌汁などに使用されます。岩のりが1枚の海苔として完成するまでの工程はすべて手作業で行われます。手間と時間はかかりますが味は濃厚で磯の香りが強いのが特徴です。

日高

今年も例年より時化が多く、浜にとって大変厳しい日が続いていますが、ここに来て一気に暖かくなり春の陽気を感じるようになってきました。年明けの水揚げは鮮魚全体で見ると今一つですが、毛がに、柳だこが昨年より比べ好調で、金額ベースではまずまずといった印象です。3月には各地でつづ籠漁が始まるほか、当管内の風物詩であるふのり漁も盛んに行われるようになり、浜はようやく活気づく季節を迎えようとしています。

北見

当管内では流氷到来により外海水揚げは休漁が続いており、現在はサロマ湖で行われているかき漁や氷下待ち網漁(ちかやきゅうり)での水揚げが中心となっています。今後はほたての漁場造成をはじめ、毛がに漁や底曳網漁も始まります。日も徐々に長くなり、海明けが待たしい限りですが、なによりも各漁の安全操業と豊漁を心より祈願しています。

函館

函館市恵山地区で、2月8日(日)にごっこ祭りが行われました。ごっこはホテイウオのことで、見た目は丸く、腹部に吸盤を持っているのが特徴の、地元「恵山町の魚」です。主に、身と卵を入れたごっこ汁として食べられており、道南の郷土料理として親しまれています。身はゼラチン質でプルプル、卵はプチプチしており、味はもちろん食感も楽しめる料理となっています。

釧路

釧路東部地区では2月1日に毛がに漁が解禁され、6日に初水揚げとなりました。昨年と比較すると時化が重なったこともあり水揚げ数量は3割減、単価は昨年並で推移しており、今後の漁模様の回復に期待です。他にもすけそう刺網などの漁が行われていますが、厳しい寒さが続き、時化早い時期ですので、事故のない安全操業を願っています。

稚内

1月下旬に入り、稚内・利礼地区では毛がに刺し網漁の操業が始まりました。価格は昨年より高値でのスタートとなりましたが、水揚げが本格化するにつれ数量・価格とも高水準で安定したことになることを期待しています。また、オホーツク地区でも毛がに籠漁・ほたて漁の準備が着々と進んでおり、来月からの操業開始に向け浜は活気づいています。まだまだ寒く荒れやすい海ですが、安全操業で豊漁となることを願っています。

2種類の貝の食感が楽しい、簡単ちらし寿司

# ほっきとほたての 簡単ちらし寿司

浜のおかあさん

レシピ



今回はほっきとほたてを使った「ほっきとほたての簡単ちらし寿司」をご紹介します。2種類の貝の異なる食感に、甘酢しょうがとごまの歯ごたえがアクセントになります。大人から子供まで、誰もが美味しくいただけるメニューです。

## 材料(4人分)

- ・米…2合
- ・ほっき…2個
- ・ほたて貝柱…4個
- ・甘酢しょうが…40g
- ・昆布醤油…大さじ2
- ・すし酢…大さじ4
- ・白ごま…適量
- ・大葉…2枚

## 作り方

- ① ほっきは身をむき、さっとボイルする。
- ② ①のほっきは細切りに、ほたて貝柱は繊維にそって薄切りにし、昆布醤油に漬けておく。
- ③ 甘酢しょうが、大葉は千切りにしておく。
- ④ 少しかために炊いた米にすし酢を入れ、切るように混ぜた後冷ましておく。
- ⑤ すし飯を皿に盛り、③の甘酢しょうがと大葉、②のほっきとほたてを乗せ、白ごまを散らして出来上がり。



苫小牧漁協

山口加津子さん

いぶり噴火湾漁協

小山 幸子さん